

宮崎県医療機器産業研究会設立趣意書

宮崎県から大分県に広がる東九州地域には、人工腎臓、血液浄化（アフェレシス）機器、血液から白血球を除去するフィルター、輸血に使用される血液バッグ製品、血管用カテーテルなど、血液や血管に関する医療機器を製造するメーカーの生産・開発拠点が集積しています。

さらに、これらのメーカーの製品は、世界一、あるいは日本一のシェアを有するものも多く、東九州地域は、血液・血管に関する医療機器の世界的な生産・開発拠点となっています。

医療関連産業は景気の変動に左右されにくい安定した産業といわれ、国の「新成長戦略」においても成長牽引産業として位置づけられており、この分野は今後の地域活性化の核となる産業としても期待されています。

このような中、宮崎、大分両県は、平成22年10月に「東九州地域医療産業拠点構想（東九州メディカルバレー構想）」を策定し、血液や血管に関する医療を中心に産学官が連携を深め、医療機器産業の一層の集積と地域経済への波及、更にはこの産業集積を活かした地域活性化と医療の分野でアジアに貢献する地域を目指して、研究開発、医療技術人材育成、血液・血管に関する医療拠点、医療機器産業の4つの拠点づくりに取り組んでいます。

このような状況を踏まえて、東九州地域の医療機器産業の一層の集積を視野に入れながら、産学連携・医工連携による研究開発や医療機器メーカー等とのマッチングなど産学官が一体となって様々な活動を展開していきたいと考えています。

そのため、熱意ある県内企業が集まり、これまで培ってきた「ものづくり技術」等を活かして、医療機器、構成部品、製造装置から物流に至るまで、幅広く医療機器産業の中で取引拡大や新規参入を目指して、本研究会を立ち上げるものであります。